

映旬

1

アニメーション専攻 第四期生修了制作展

◎アニメーション専攻

三月八日から十日まで、本学横浜校地馬車道校舎において、第四期生修了制作展「GEDAI ANIMATION 04 SALE」を開催した。修了作品と一年次制作の計三十本近くの作品を上映し、ラッパの宇多丸氏によるトークイベントと、ドキュメンタリー監督の松江哲明氏と山村浩二教授による対談を行った。また三月十六日から二十二日には、渋谷のユーロスペースにおけるレイトショー上映を行った。

2

現代映像プロデュース論 2012-2013

◎アニメーション専攻

アニメーションの名作はどのように生まれ、世に送り出されているのか、また業界の最前線で何が起きているのかをプロデュースという視点から探る講座を一月十八日から五回にわたって開催した。徳島市でのアニメイベント「マチ☆アソビ」に見られる文化と場所の融合や、観客参加型アニメバトル「CGアニカッブ」、個性あるプロダクションとして名高いボンスの舞台裏、ニコニコ動画の与えた影響と将来、そして二〇一二年度のアニメーション十大ニュースまで、最もホットな講師を招いて詳しく解き明かした講座となった。

3

映画専攻七期生修了制作展

◎映画専攻

三月十六日、十七日の二日間、横浜・馬車道校舎において、映画専攻七期生修了制作展を行った。神奈川芸術大学映像学科研究室『ビューティフル・ニュー・ベイエリアプロジェクト』『パイパイ、マラーノ』『友達』が上映され、それぞれ好評を博した。七月六日から十九日には、渋谷ユーロスペースでもレイトショー上映を行った。

5

横浜市民公開講座 open THEATER/ex2 「ジヨアン・ペドロ・ロドリゲス 監督特別講義」

◎映画専攻

三月二十四日、横浜・馬車道校舎において、ポルトガルの映画監督ジヨアン・ペドロ・ロドリゲス氏の作品上映と講義を行った。『男として死ぬ』(二〇〇九年)を上映後、映画評論家の大寺眞輔氏の司会による講義を行い、好評を博した。

4

Open Theater / Etc. 『Sonic Road Movie YOKOHAMA』

◎映画専攻

三月二十三日、横浜・馬車道校舎において、映画専攻一期修了生の加藤直輝氏が監督した『Sonic Road Movie YOKOHAMA』の上映会を行った。これは映像を上映しながら、その場で音をつけるというイベントで、好評を博した。

6

オムニバス作品『らくらび映画』封切

◎映画専攻

四月六日、映画専攻七期生制作のオムニバス作品『らくらび映画』が劇場公開された。古典落語の『ねずみ』『死神』『猿後家』を原案にアレンジしたオムニバス形式の作品で、二年次の実習として昨年の七月に撮影されたもの。



アニメーション専攻第四期生修了制作展
アニメーション専攻

1



5 横浜市民公開講座 open THEATER/ex2
「ジョアン・ペドロ・ロドリゲス監督特別講義」
映画専攻



現代映像プロデュース論 2012-2013
アニメーション専攻

2



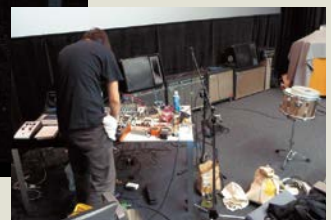
映画専攻七期生修了制作展
映画専攻

3

右から時計回りに、
『神奈川芸術大学映像学科研究室』
『ビューティフル・ニュー・ベイエリアプロジェクト』
『友達』
『バイバイ、マラーノ』



6 オムニバス作品『らくご映画』封切
映画専攻



Open Theater / Etc. 『Sonic Road Movie YOKOHAMA!』
映画専攻

4



TOPICS OF
FINE ARTS

2013.02-07

美旬



展覧会「物質と彫刻—近代のアポリアと形見なるもの—」

上：2階展示会場 左下、右下：ギャラリートーク

1



2013 NEWS展 2

1

展覧会「物質と彫刻―近代の
アポリアと形見なるもの―」

四月二日から二十一日まで、大学美術館陳列館において、彫刻科主催の「物質と彫刻」展が開催された。本展は本学彫刻科教員、教育研究助手六名と、学外から現在国内外で活躍中の作家五名を招き、展覧会が構成された。

会期中に行われたアーティスト・トークやシンポジウムには多くの若い学生が熱心に各作家の話や聞き姿があり、会場は足の踏み場もないほどの盛況となった。小企画ではあるが、ベテランから若手までが多種多様な物質に対するアプローチを行った本展は、学内外から高い評価を得られた。

2

2013 NEWS展

六月十日から十四日まで、平成二十五年度に新たに油画研究室に加わった教員の制作作品を絵画棟1階アトスペース1・2（大石膏室手前）を展示会場として一堂に集め発表する展覧会（NEWS展）が開催された。

これは、在校生をはじめとした大学関係者、一般市民に広く制作・研究活動を紹介し、今後の大学での教育研究活動に寄与することを目的としている。この展覧会には今年度も、多種多様な表現形式をとった作品が集まり、「絵画・油画」を出発点とした表現が多様な展開の可能性を秘めていることを示す良い機会となった。



右上：ドイツブース展示風景
左上：日本ブース展示風景
左下：シュツットガルト美術大学



折り本ワークショップ



オープニング風景



版画第二研究室展「ずれた」 4

3

Zig Zag 展 (三國G国際交流展)

六月十三日から二十六日まで、ドイツ・シュツットガルト美術大学において、Zig Zag 展 (三國G国際交流展) が開催された。

本展は、シュツットガルト美術大学の企画により、日本画研究室、ソウル大学の芸術家及びヨーロッパを中心に国際的に活躍しているアーティストを招待し、関係を繋ぐことを目的としている。

ジグザグ・ペーパー (日本では折り本・折り手本) と呼ばれる従来の東アジアの素材、および形式をテーマにそれぞれの解釈で実験的に試みた作品が展示され、国ごとに特徴のある展覧会となった。

4

版画第二研究室展「ずれた」

七月十日から十八日まで、版画第二研究室展「ずれた」が絵画棟1階 Art space 1, 2で開催された。今年で二年目となる本展では版画第二研究室教職員四名と在籍する学生十二名が出品し、いわゆる一般的な版画領域からずれたさまざまな作品が並んだ。初日のオープニングパーティーには学外からの来場もあり、出品者にとって貴重な意見交換の場となった。土・日・祝日を含めた九日間の展覧会は好評を博して終了した。

音旬



祝 第10回日中音楽比較研究国際学術会議円満成功



第10回日中音楽比較研究国際学術会議(楽理科)

上：開会式後の参加者全員での記念撮影

中：研究発表会の様子

下：本会議の実行委員会

1

第10回日中音楽比較研究 国際学術会議(楽理科)

1

三月二十七日、二十八日、アジア総合芸術プロジェクトの最終事業として、中国から招いた音楽研究者三〇名と日本側研究者六〇名が参加し、標記会議が開催された。本会議は、一九九五年福建師範大学での第一回来、隔年開催されてきたが、日本での開催は二〇〇一年沖繩県立芸術大学での第四回に次ぐ二度目である。両国の研究者は、本会議用に日中両国語で編集された論文集に基づいて、二会場に分かれて最新の研究成果を発表し合い、交流を深めた。二十七日夕には邦楽科の協力を得て能ホールにおいて歓迎演奏会が行われ、約百名の聴衆が間近に聴く邦楽(山田流箏曲・宝生流仕舞・長唄)の魅力を堪能した。会期中に満開を迎えた上野や谷中の桜の美しさも、中国人研究者を魅了した。

2

伊達ジュニアウインド オーケストラとの合同演奏会

器楽科管打楽器専攻が昨年度より取り組んでいる「吹奏楽きらめき事業」は、福島県伊達市が行っている震災復興事業の一環である。その二回目となる合同演奏会「伊達ジュニアウインド



3

能楽公演「夏目漱石の見た能 習った謡」

能「高砂」より

上：後シテ(住吉明神：武田孝史教授)

下：前シテ(翁：辰巳満次郎)、ツレ(姥：和久莊太郎)



伊達ジュニアウィンドオーケストラとの合同演奏会

上：合同演奏会(指揮：山本正治教授)

右下：古屋大臣のクラリネット演奏

左下：藝大ウィンドオーケストラの演奏

2

3

能楽公演

「夏目漱石の見た能 習った謡」

ドオーケストラ×東京藝大ウィンドオーケストラ合同演奏会」が五月十九日、同市保原体育館で開催された。

この日は、伊達市と藝大の橋渡しをしていただいた古屋圭司国務大臣が、クラリネットを携えて登場、藝大ウィンドオーケストラをバックにモーツァルトの協奏曲第2楽章を演奏し会場を沸かせた。「この事業を通して一人でも多くの子供たちが音楽を一生の友として歩んでくれれば」という古屋大臣のメッセージに、文化芸術のもつ責任を改めて考えさせられたコンサートとなった。今年度は交流事業として、夏の吹奏楽コンクールシーズンに合わせた訪問指導や、秋と冬には学生が指導にあたるクリニックが予定されている。

大学美術館にて開催の「夏目漱石の美術世界展」関連事業として六月二十二日、能楽公演「夏目漱石の見た能 習った謡」が音楽学部第4ホールにおいて開催された。

これは音楽学部と大学美術館が協力して行われた催しで、特に邦楽科を有する本学の利点を最大限に発揮したものであった。

漱石の作品や日記に登場する「能」の演目を取り上げて、独吟・連吟・仕舞・能の形式による実演を行い、文豪夏目漱石の新たな一面を示すことを目的とした公演は漱石作品への理解を一層深めることに繋がるものとなった。

当日は、ハガキによる応募での当選者(約一二〇名)でほぼ満席となり、観客に大きな感銘を与えた公演となった。